

教育目標	重点目標	自己評価		
		評価項目	評価	
心身ともに健やかで調和のとれた人間形成の基礎を養う ○明るく元気な子ども ○友達と仲良くできる子ども ○最後までがんばる子ども	I 子どもを中心に据え、全職員が共通理解のもと協力して教育を進める	① 子どもは、幼稚園生活を楽しんでいる。 ② 子どもは、身の回りの始末や手洗い・うがいなどの基本的生活習慣が身に付いてきている。 ③ 子どもは、戸外遊びや体を動かして遊ぶことを喜び健康な体ができてきている。 ⑭ 子どもの姿や活動について情報交換をしたり、相談し合ったりするなど共通理解をし、全教職員の協力のもと教育活動を行っている。	(保護者アンケートより)別紙参照 ①に関して、子どもが喜んで登園し生き生きと活動してこそ幼稚園教育を充実させることができ、また幼稚園への信頼にもつながることであるため、全員が「そう思う」としたことは大きな意義があると考えます。 ②に関して、「あまりそう思わない」人がいるなど職員との評価に差があり、家庭では自らできていないようである。当たり前のこととして習慣づけることができるよう、家庭と協力しながら進めていきたい。	(教職員自己評価より)別紙参照 ②に関して、個人差が大きく、一人一人に応じて援助をしている。繰り返しの支援が必要な子どももおり、家庭の協力も必要で、連携しながら進めていきたい。 ③に関して、運動習慣や体力向上のため、励みになるよう個別のカードを作成してマラソンや縄跳びに挑戦できるようにしたり、全員で鬼ごっこや長縄跳びをする時間を設けたりした。 ⑭に関して、常に情報交換や共通理解、悩みの相談や話し合いなどをし、全職員で子どもを見守り育てていくよう努めてきた。
	II 人とのつながりの中で、子どもが互いのよさに気づき、大切にしようとする心を育む。	④ 子どもは、先生や友達の話をよく聞こうとしている ⑤ 子どもは、自分の思っていることを、言葉や態度で先生や友達に伝えようとしている。 ⑥ 教職員は、子どものことを理解し、一人一人を大切にしたい保育をしている。 ⑮ 研究テーマである「一人一人を大切に温かい仲間づくりをめざして」の観点から子どもの育ちを丁寧にとらえ、環境を構成したり見直しをしたりしている。	④⑤に関して、昨年度は全員が「そう思う」と評価していたが、「あまりそう思わない」人もおり、低めの評価となっている。特に、伝えることに関しては配慮が必要な子どももおり保護者も心配しているが、心配な中にも成長を実感している声も寄せられた。 ⑥に関して、小規模園のよさを生かし、子ども一人一人に応じて関わったり丁寧に指導したりと、大切に取り組んできたことが評価されたと考える。	④⑤に関して、保護者と同様に、全体の中では評価が低めの項目である。特に⑤に関しては、心理的な配慮や語彙力の向上、発音の練習など、個別に取り組むべき課題も多く、関係機関とも連携を取りながら進めてきた。 ⑥⑮に関して、事例研究を行い、市幼稚園教育研究協議会の研究資料をまとめた。子どものありのままを受け止めながら、それぞれのよさを認め周りに知らせるようにし、受け入れられている安心感や自己肯定感をもつことができるようにしてきた。
	III 小・中学校や地域との連携を深め多様な体験を通して人と関わる力を育てていく。	⑧ 幼稚園は、地域の人材や自然環境などを活用し、子どもに豊かな体験活動ができるように努めている。 ⑨ 幼稚園は、子どもの成長・発達にとって意味のある行事や教育活動の工夫・精選をしている。 ⑩ 幼稚園は、小・中学校や地域の方々との交流を通して、連携した教育活動を行っている。 ⑯ 幼・小の連携で子どもの育ちを支えていくために、その場や機会を生かしている。	⑧⑩に関して、入田地域の自然や人との関わりを保育に生かし、入田幼稚園ならではの、様々な経験ができるようにしていることとする姿勢が伝わっていると考える。小・中学校との連携の深さも評価されており、互恵性の観点からも大切に続けていきたいと考える。 ⑨に関しては、人数や家庭状況を考慮した精選を求める声もあり、毎年細やかに検討をし、意見を出し合いながら進めていきたい。	⑧に関して、毎年たくさんのお声掛けをいただき、地域の自然の中で遊んだり、季節折々の体験をしたりすることができており、とてもありがたいことだと感謝している。 ⑩⑯に関して、小・中学校との交流や行事、地域での園外保育など、多くの人と関わり様々な体験をすることができた。様々な人と関わり大切にされていると感じることで、他の人のことも大切にできるようになっていくと考える。このような体験を繰り返しながら、感謝の気持ちを育み、本園ならではの活動を絶やすことなく続けていきたい。
	IV 子どもはもとより、保護者や地域からも信頼される教師としての指導力の向上を目指し自己研修を進める	⑦ 教職員は、保護者からの連絡や相談に適切に応じている。 ⑩ 幼稚園は、保護者にとって、園生活の様子を知ったり保護者同士の交流を深めたりする場としても有意義なものになるよう、保育参観や園行事を工夫している ⑰ 園内外の研修に積極的に参加するなど資質の向上に努め、保育や環境構成に生かしたり見直しをしたりしている。	⑦に関して、肯定的な意見が多く、積極的に声を掛け、気軽に話せる信頼関係づくりを大切に続けてきたことが評価につながったと考える。 ⑩に関して、活動の機会を少なくと捉える人も精選が必要と考える人もいた。よりよい園行事やPTA活動となるよう話し合いながら進め、ニーズに応えながらも不易と流行をしっかりと見極め、協力し合って楽しく意義のある活動ができるようにしていきたい。	⑦に関して、保護者の思いや願いに寄り添いながら丁寧に話を聞き、安心できるようにするとともに、ニーズの把握をしていきたい。 ⑩に関して、園児数が少ないため、相談しながらPTA活動の内容や実施形態などの検討をした。今後の見直しも含め課題は多くあり、保護者と共に柔軟に考えていく必要がある。 ⑰に関して、園外での研修に参加したり公開保育を見たりする機会を得たときには、学んだことを他の職員に伝え、学びを共有できるようにした。
	V 幼稚園教育への理解を深めることができるよう、保護者や地域に向けて積極的に情報を発信する。	⑫ 幼稚園は、毎日の登降園時や参観日、ホームページや地域の広報誌などを通して、園生活の様子や子どもの成長、保育内容などを伝えている。 ⑱ ホームページや地域広報誌を活用し、保護者に園生活や子どもの取り組みを知らせたり地域内外に幼稚園教育についての情報を積極的に発信したりすることに努めている。	ホームページの更新頻度に要望が上がり、閲覧を楽しみにしていることが伝わってきた。子どもの成長や発達の姿を通して、幼稚園教育のよさを知らせていくことができる機会であるので、新聞の広報やCATV放送など、できるだけ広く活用を進めていきたい。また、登降園時に毎日保護者と顔を合わせるメリットを生かし、小さなエピソードもたくさん伝えていきたい。	保育の準備や日常の事務などで非常に多忙だが、伝える内容や方法を精選し、活動のねらいや学び、教員の願いなどを始め、それらが子どものどのような姿につながっていくかなど、幼稚園教育の意義やよさを分かりやすく知らせていきたい。 未就園児への園開放を実施したが、参加人数が非常に少ない。実際に園生活の様子を見てもらったり、保護者と会話を交わしたりすることでつながりができるので、広く周知していきたい。
	VI 危機管理の対応を明確にし、安全・健康教育を進める。	⑬ 幼稚園は、日々の安全管理や防災教育、衛生管理や感染症対策などを行っている。 ⑲ 危機意識をもって非常時の対応などを共通理解するとともに、避難訓練などの防災教育や健康で安全な生活を送るための指導に努めている。	全員が「そう思う」としている。 感染症対策が欠かせない毎日が続いたが、本園は欠席する子どもも少なく、比較的元気に1年を過ごすことができた。これらの項目に関する社会的関心は高く、今後も一層の取り組みが必要であると考えます。	衛生面に関して、様々な感染症対策としての基本である手洗いうがいや咳エチケットなどの指導・励行を始め、換気や消毒などについても留意し、清潔で安全な環境づくりを心掛けた。 防災面では、様々な災害や場面を想定してマニュアルを作成しているが、危機意識をもって避難訓練を行い、見直しを図っていききたい。

※ 評価項目①～⑬は共通の項目。⑭～⑲は教員のみ項目。